



大学院だより

令和 7 年度大学院歯学研究科入学式

令和 7 年度の東京歯科大学大学院歯学研究科入学式は、令和 7 年 4 月 2 日（水）午前 10 時より、33 名の新入大学院生を迎えました。澁川大学院教務部長による新入生の呼名紹介の後、一戸達也学長と齋藤淳大学院研究科長からの新入生を激励する訓辞をいただきました。さらに、東京歯科大学同窓会富山雅史会長にもご挨拶をしていただきました。そして、最後に新入生を代表して井澤太郎大学院生（クラウンブリッジ補綴学講座）が宣誓し、入学式は終了しました。入学式終了後、福田謙一学生部長による研究の捏造、改ざん、盗用など問題行動による影響が如何なるものかなど、研究に取り組む上での倫理に関する講習会と大学院生活の注意点や履修に関するオリエンテーションが行われました。



令和 7 年 4 月に入学した 33 名の新入大学院生



訓示を述べられる 一戸達也学長

令和7年度東京歯科大学大学院歯学研究科入学者一覧

番号	氏名	ふりがな	所属講座
1	秋山 拓	あきやま たく	老年歯科補綴学
2	浅井 泉紀	あさい みずき	老年歯科補綴学
3	安藤 雅人	あんどう まさと	歯周病学
4	井内茉莉奈	いうち まりな	パーシャルデンチャー補綴学
5	井澤 太郎	いさわ たろう	クラウンブリッジ補綴学
6	伊藤亜弥乃	いとう あやの	老年歯科補綴学
7	岩澤菜々恵	いわさわ ななえ	生理学

8	江川 優果	えがわ ゆか	保存修復学
9	大塚健一郎	おおつか けんいちろう	歯科矯正学
10	岡村 梓文	おかむら しもん	保存修復学
11	金輪 英俊	かなわ ひでとし	歯科麻酔学
12	黒澤 果令	くろさわ かれん	口腔健康科学
13	小枝 諒佑	こえだ りょうすけ	クラウンブリッジ補綴学
14	坂梨 敬哉	さかなし たかや	歯科矯正学
15	篠田 智香	しのだ ともか	歯科麻酔学
16	蘇 展	そ てん	解剖学
17	立浪 凜	たちなみ りん	歯科麻酔学
18	田中 香帆	たなか かほ	歯科矯正学
19	玉川 学	たまがわ まなぶ	パーシャルデンチャー補綴学
20	徳丸 詩織	とくまる しおり	歯周病学
21	鳥羽 直樹	とば なおき	解剖学
22	中川 宗哲	なかがわ むねとし	病理学

23	中野友里加	なかの ゆりか	口腔健康科学
24	濱田 崇人	はまだ たかと	パーシャルデンチャー補綴学
25	番園 紘之	ばんその ひろゆき	口腔健康科学
26	廣瀬 優	ひろせ ゆう	口腔インプラント学
27	藤井 絢太	ふじい けんた	クラウンブリッジ補綴学
28	藤野 后加	ふじの みか	歯内療法学
29	松田 忍	まつだ しのぶ	歯周病学
30	松本 慶	まつもと けい	口腔腫瘍外科学
31	三輪 桃子	みわ ももこ	歯周病学
32	吉田 穰	よしだ じょう	口腔インプラント学
33	吉橋 雄生	よしはし ゆうき	解剖学

令和7年度大学院新入生 学外総合セミナー開催

令和7年度大学院新入生学外総合セミナーは、2025年5月29日（木）～5月31日（土）の2泊3日で、「御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush up」にて行われました。参加者は、新入大学院生32名と齋藤淳大学院研究科長、澁川義幸大学院教務部長、福田謙一大学院学生部長及び堂地一利大学院事務の大学院関係者の他、法歯学・法人類学講座の石川 昂 教授に同行していただきました。

また、外部の特別ゲストとして、大阪大学大学院医学系研究科生態防御学教室の茂呂 和世教授にご参加いただきました。参加者は、5月29日木曜日の9時に全員水道橋に集合して、バスにて御殿場に向けて出発しました。初日は、まずまずの晴天でした。予定通り、お昼前に現地に到着し、昼食後、各大学院生の自己紹介が行われました。各々大学院に入学した動機や最近特に取り組んでいること、興味があることなど、しっかりと自己アピールをしていました。



出発前の石川教授と到着後の昼食



大阪大学大学院医学系研究科生態防御学教室 の茂呂 和世教授の熱い講演

研究に打ち込むことの楽しさ、子育てなどのプライベートとの両立など、その生き方に大学院一同、とても感銘を受けました。



井内茉莉奈大学院生の質問とそれに答える茂呂 和世教授



茂呂 和世教授を囲んで参加者全員の集合写真



1日目終了しての親睦会 富士山も見えました。



5つのグループに分かれて、課題学習

Clinical Question (CQ) を1つ挙げて、研究をデザインしてみました。

その結果の発表会では、活発な討論が行われました。



最終日に石川昂教授の講演が行われました。博士課程に進学する意義、研究の楽しさや研究への取り組み方などのお話をされました。とても、有意義な時間となりました。

新入大学院生にとって、大変充実した3日間でありました。英文学術雑誌抄読発表会において優秀賞に選抜された松本 慶 大学院生、廣瀬 優大学院生、金輪英俊大学院生、井内 茉莉奈大学院生の4名に本セミナーの感想記を書いていただきました。

大学院学外セミナーを通して

口腔腫瘍外科学講座
松本 慶

今回の経験は、今後の学びへの姿勢に多大な影響を与えるものとなりました。大学院に進学して間もなく、英語論文を精読・発表するという課題は、私にとって非常に大きな挑戦でした。英語そのものの読解に加え、専門用語や研究背景の理解、そして論理構成の把握と、当初は途方に暮れる思いでした。しかし、指導教員や先輩方からのアドバイスを受けながら、ひとつひとつの疑問を丁寧に解きほぐしていく中で、「読む」という行為が単なる情報の受け取りではなく、「考える」プロセスであることを痛感しました。

特に、論文を読み進めるうちに、著者の主張や結論に対して「本当にこの解釈は妥当なのか」「他の視点から見たときにどうか」といった批判的な視点を持つことの重要性を学びました。これまで私は、文献をある種“正解”のように受け止めてしまう傾向がありましたが、科学においては常に疑問を持ち、他の可能性や限界を考慮する姿勢が不可欠であると実感しました。今回の発表準備を通して、そうした「批判的思考力」が少しずつ身に付いてきたことを感じています。

また、セミナーでは自分の発表だけでなく、同期の仲間たちの発表を聴くことができたのも非常に貴重な経験でした。各々が選んだ論文のテーマや着眼点、分析の深さには驚かされることばかりで、自分にはなかった視点や読み解き方に大いに刺激を受けました。中には、同じ研究領域であっても全く異なるアプローチを取っている発表もあり、同じスタートラインに立つ仲間のレベルの高さや独自性に触れることで、自身の学びの方向性を見直すきっかけにもなりました。

今後はこの経験を糧に、さらに深い理解と柔軟な発想を持って研究に取り組んでいきたいと思います。そして、自らが受けた刺激を次は誰かに与えられるような、そんな存在を目指して成長していければと願っています。

大学院学外セミナーを終えて

口腔インプラント学講座 廣瀬優

この度、大学院1年生を対象とする大学院学外セミナーに参加しました。学外セミナーは御殿場高原時之栖にて開催され、二泊三日という期間で仲を深めつつ、講演、英文学術誌発表、提示された課題に対するグループ討論及び発表を行うものです。

講演では茂呂和世先生と石川昂教授に貴重なお話をさせていただきました。以前までの私は、大学院で取り組む研究に対してや、その間に臨床で経験を積んでいく同級生に対して、不安や焦りを感じていました。しかし、お二方のお話の中で、大学院は学位をとることがゴールではなく、研究したことを臨床に活かし、その臨床で生まれた疑問点を研究していくという循環によって成長していくことを学びました。

二日目の午前中は英文学術誌の発表です。入学直後から読み慣れない英語の論文に悪戦苦闘しつつスライドを作成し、佐々木教授とのディスカッションや予演会を経て、何とか完成させることができました。当日は緊張していたため、私自身の発表はほとんど記憶にありませんが、他講座の大学院生からの質問は強く印象に残りました。新鮮な観点の質問であったため、私の扱った論文を違った角度から見直す機会となり、大変勉強になりました。

午後はグループ討論です。“身近な疑問を解決する研究をデザインする”という課題で、私たちのグループは音楽と集中力の関係性について討論しました。興味本位で挙げた疑問ですが、具体的研究法や考えられるバイアスに関しての話し合いが白熱してしまい、夜遅くまでスライド作りをしていました。

三日目はグループで作成したスライドの発表です。全てのグループが特徴的で興味深い発表であったため、充実した時間を過ごせました。今後の研究においても、身近な疑問が契機となることを念頭に置いて、大学院生活を送っていきたいと思います。

最後に、学外セミナー開催にご尽力頂きました大学院事務所および先生方、英文学術誌発表にあたり指導して下さいました口腔インプラント学講座の先生方に感謝申し上げます。

大学院新入生学外総合セミナーを通じて

歯科麻酔学講座 金輪 英俊

大学院生としての新生活にも慣れてきた 5/29 から 3 日間、大学院学外セミナーに参加させていただきました。会場となる時之栖は、静岡県御殿場市にあります。雄大な富士山の前に佇み、安らぎを得られました。イルミネーションが有名な会場でした。初夏であり、蛍を観察できる場所もありました。電飾と自然の輝き、双方の美しさを堪能しました。

私の所属する歯科麻酔学講座は、他分野の先生と連携して臨床を行うことが特に多い講座です。それでも、歯科麻酔学講座の仲間と大半の時間を過ごします。他講座に所属する同期たちとの時間は懐かしくもあり、新鮮でもありました。英文学術誌抄読会では、学部・研修医時代に見知った友人が専門分野について熱く語る姿が印象的でした。「専門性」という大学院の歩みが始まっているのだ、と自らについても客観視できました。

夜はお酒を酌み交わしながら、外来で見かけることも多かった他講座の先生方と親睦を深めました。将来、臨床や研究でコラボレーションすることが楽しみでなりません。

茂呂先生の講演は、研究の厳しさと夢、楽しさを伝えていただきました。ILC2 の発見秘話は、映画のようなストーリーに圧倒されるばかりでした。

石川先生の講演も大変興味深く、大学院生として、研究テーマの重要性を認識しました。

法歯学分野のお話や、石川先生の現在に至るまでの半生も楽しく拝聴させていただきました。

このセミナーを通じて得られた経験や内容を忘れることなく研究活動に励みたいと思います。

貴重で、かけがえのない経験である今回の学外セミナー開催にご尽力頂いた先生方、大学院事務局には心より感謝申し上げます。また、英文学術誌抄読会に指導頂いた歯科麻酔学講座の先生方に、この場を借りて感謝申し上げます。

問い続ける力と、気づく視点 ～大学院学外セミナーに参加して～

パーシャルデンチャー補綴学講座
井内 茉莉奈

御殿場での学外セミナーは、振り返るとあっという間の三日間でした。大学院の同期と交流する中で、異なる分野の研究や日常の過ごし方に触れ、大きな

刺激を受けたこの経験は、今の私たちにとってかけがえのない貴重な時間だったと感じます。

今回の学外セミナーで印象に残ったことは、大きく二つあります。

一つ目は、「研究という発見の裏にある努力」についてです。今回の学外セミナーでは、大阪大学大学院の茂呂教授からご講演をいただきました。ご講演の中で印象的だったのは、先生が何度も諦めずに実験を繰り返していたことです。一本の論文を書くために行った実験回数は、合計 825 回。輝かしい発見の陰には、想像もできないほどの努力と試行錯誤が積み重ねられているのだと知り、身の引き締まる思いがしました。また、最終日には法歯学講座の石川教授からもご講演をいただきました。その中で、「研究とは、誰にも分からないことに挑むことであり、参考文献という標識をもとに、いつか誰かの“標識”となるような論文をぜひ書いてください」とのお話がありました。日々努力を重ね、真摯に研究に取り組みたいと感じました。

二つ目は、「分野に縛られない自由な発想力」です。グループディスカッションでは、日常の中で感じた疑問の中から研究テーマ（Research Question）と研究計画を立案しました。話し合いを通じて、研究の原点は日常や診療の中にある些細な疑問から生まれるものであり、そうした疑問に気づく視点こそが重要だと実感しました。そのような視点を持つためには、自分の専門分野や歯科の枠にとらわれない広い視野が必要だと感じました。実際に、メンバーの異なる着眼点や各自の専門分野に基づく発想が交わることで議論がより深まっていく経験は、今後の大学院生活にとって大きな糧になったと感じています。また、各講座に大学院の同期がいることの大切さにも気づきました。研究や臨床で行き詰まったときには、一人で抱え込まず、大学院の仲間や先生方に相談しながら、新たな視点や突破口を見出していきたいと考えています。

これから私たちは、研究という答えのない問いに挑み始めます。実験がうまくいくことも、何度もくじけそうになることもあるでしょう。それでも初心を忘れず、この大学院学外セミナーで学んだ原点に立ち返りながら、小さくても「世界で最初の発見」を目指して、仲間とともに切磋琢磨し、日々努力していきたいと思います。

編集後記

本年 4 月に、新たに 34 名の新入大学院生を迎えました。今年の御殿場での学外研修は、数年越しの願いが叶っておいでいただいた茂呂 和世教授の素晴らしいお話に始まり、2 日目の学術雑誌抄読発表会、3 日目の共同課題学習発表会いずれも、例年になくレベルが高く、とても感心しました。有意義な 3 日間であったと思います。（福田謙一 記）